

千葉県精神保健福祉士協会 災害対策委員会より活動報告

【災害対策委員会の15号台風におけるこれまでの動き】 令和元年9月9日～10月16日

9月9日(月) 台風通過 通信障害 事務局機能停止(停電によるもの) 埼玉、群馬、栃木からDPATが入ったとの情報あり。12日に解散。

10日(火) 理事メール上に災害対策本部設置。総武病院に担っていただき、情報の集約。

11日(水) 情報集約の中で停電による食事の提供が困難になりつつある事業所にPSWのネットワークでアルファ米を届ける。他県より、物資を含めた支援可能であるという協力依頼あり。現状物資の送り先やPSW協会として必要な物資の把握ができなかったこともあり他県からの支援は受け入れず。

12日(木) 県が福祉団体を招集し、会議を開催(知的協、千葉精、ケアマネ・・・、CSK、高齢者等) 現状確認依頼と居住地を失った場合等の入居を支援してほしいというような内容の話。

13日(金) 停電の長期化により千葉県全域で被災状況が長引いている。特に山武地区、富津地区、館山地区という情報あり。災害対策委員会で週末の被災地視察を決める。

15日(日) 理事会 現状の確認をして、協会としての方向性、費用負担、現地視察を決定。

16日(月祝) 館山地域、山武地域に災害対策委員が分かれて視察。館山に関しては、必要であろうものを事前に聴取して物資を購入して持参する。

17日(火) 際の災害対策本部を総武病院内に設置して、会員からの意見集約ができるよう、ホームページ掲載。災害時メールを作成する。 chibapswsaigai@gmail.com 支援が必要な会員、支援を行ないたい会員をマッチングできるようなイメージで会員からの情報を受ける体制を作った。

19日(木) 千葉県社会福祉士会会長より富津市の支援活動の打診ありホームページに掲載し対応開始。当協会理事から館山についても支援要請あり。

20日(金) 日本精神保健福祉士協会災害対策本部の設置と寄付金募集開始。県庁の障害福祉課より今後の協力体制についての打診あり(内々のもの)。その後、正式な依頼無し。

21日(土) 協会のホームページより災害時メールに登録され、富津市に3名、館山に1名(4日間 続けて参加)を千葉県社会福祉士会と協力して活動。当協会として派遣。

25日(水) 県内の精神保健福祉関連団体との会合。現状の共有、課題の確認、今後の連携等について相談。千葉県精神障害者自立支援事業協会 会長。千葉県精神保健福祉士協会 会長 理事4名、日本精神保健福祉士協会 常務理事の木太氏にも出席いただく。

26日(木) 拡大災害対策委員会で活動を振り返り、決定事項等協議する。9名出席。

28日(土) 協会のホームページより災害時メールに登録され、富津市に1名、館山に3名を派遣。富津の活動は終了となる。館山については今後も依頼があると思われる。

29日(日) 天候不良が見込まれ館山市のボランティアセンターが開所されなかったが、1名派遣。

10月1日(火) 災害対策委員が館山市社会福祉協議会との打ち合わせに参加。現状について確認。

9日(水)、10日(木) 社会福祉士会からの館山市内富崎地区の個別訪問調査があるとの事で3名ずつ派遣。

16日(水) 12日(土)中部地方、関東地方を直撃した台風19号が過ぎた後で現状を確認するために会長をはじめ、災害対策委員と理事が集まり会議を行った。17名出席。今までの災害対策委員の活動の流れと災害対策メールの状況、派遣状況などを確認して、広域で被害のあった台風19号による再被災も含め対応について話し合った。

【感想】

この度の台風及び停電により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。まだまだ、住宅の損壊等で修復に時間がかかる状況ではあるかと思いますが、皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心より お祈り申し上げます。

15号台風の風速50m/sを超える風による住宅等の被害、停電によるライフラインの停止が、医療機関や地域住民にとって大きな被害となり、発災当日から精神保健福祉士の組織として何ができるかを検討する機会となりました。災害は無い方が良いですがいつどこで起こるか分からない災害に備えていくためには良い教訓になったように感じます。急性期の物的支援、数日後の人的支援、数か月後の支援者支援など肌で感じる事が出来ました。今後、どのような支援が必要か考えていくうちに、連続した台風による被害が千葉県内や各地域で起こり、支援する手も長期的な支援の必要性は感じながらも今何をしたらよいかが見えなくなってしまったような感じがしています。

発災時は、精神保健福祉士というよりは、住民、地域、自治体に対して生活者として考えていくことが必要であると思われます。DPATや他団体との連携、他の地域からの精神保健福祉士の仲間の温かい支援を今回は状況把握が出来ず、受け入れることなどが出来なかったのが平時からのネットワークづくりや防災訓練などでイメージしておくことの大切さも改めて感じました。人や物が動くときには費用がかかる事も痛感し、その時の為に準備しておくことも必要であると痛感しました。